

受領 令和6年2月27日 23時02分

通告番号(9)1/2

令和6年2月27日

読谷村議会
議長 伊波 篤 殿

読谷村議会議員
城間 真弓 印

一般質問通告書

第532回読谷村議会定例会において次の事項の質問をしたいので、会議規則第61条第2項の規定により通告いたします。

| 質問要旨 | 答弁を求める者 |
|---|---------|
| <p>1 村民に本気で向き合う村政運営を！令和6年度施政方針より、本村の具体的施策を問う。</p> <p>(1) 誰もが「住んでよかった」と思えるような地域づくりに邁進すると施政方針で述べていたが、住民が本当に「住んでよかった」と思える村づくりに最も重要なことは村長としてどのように考えるか。</p> <p>(2) 24時間利用できる「スマホ役場」とは具体的にどのような手続きを24時間利用できることを目指そうとしているのか。</p> <p>(3) 村政運営に対する5つの基本方針の1番目に子ども子育ての推進を掲げている。去った2月21日に読谷村の子育て世代を中心とした「読谷村を子育てしやすい優しい村にしたい親の会」から783筆の署名と共に村長、そして教育長直々に要望書が提出された。村長の施策として今後、要望書の中身を取り入れていく方針は。</p> <p>(4) 今年度は村民の皆さまとの行政懇談会を開催するとあったが、行政懇談会の開催周期と、開催方法、周知方法は。</p> | |
| <p>2 誰一人取り残さない幼児教育・学校教育について</p> <p>(1) 令和6年度の認可保育所(園)の待機児童の数と、隠れ待機児童数は。</p> <p>(2) 保育園入所を希望する子ども達の中で、支援が必要だと事前に把握している幼児の数と、その子達の認可保育園の入所決定率は。</p> | |

| 質 問 要 旨 | 答弁を求める者 |
|--|---------|
| <p>(3) 保育士確保に向けた新たな取り組みや、離職を食い止めるための対策をどのように考えるか。</p> <p>(4) 令和6年度の子ども達に必要な人数の特別支援ヘルパーの数の確保はできているか。また、令和4年12月の一般質問で取り上げた特別支援ヘルパーの雇用形態の改善について村民とともに強く求めてきたが、令和6年度新たに変更された雇用形態の説明を求める。</p> <p>(5) 本村の学校に通う生徒より、納得がいかない学校校則のあり方や、授業の持ち方（去年の新中学1年生からプールが男女混合）について、不満や疑問の声が届いている。教育委員会はその声を把握しているか。</p> | |
| <p>3 共生社会から考える障がい者福祉・住民福祉の増進を！</p> <p>(1) 今年の1月に起きた能登本島地震の大震災により、かけがえない多くの命が奪われました。台風は天気予報などで事前に災害に備えることができるが、今回のように大地震の場合は万が一の際の日々の備えと共に、個別避難計画の作成や、災害対策協議会を立ちあげ、当事者、福祉、医療、行政が連帯した取り組みの実施が急務と考える。本村の災害対策の現状と、今後の方針とは。</p> <p>(2) 去年の6月議会の一般質問でオストミー協会から出された30年間変わらなかった給付基準額の増額を求める要望書について質問したが、今年度予算に反映されているか。</p> <p>(3) 障害者権利条約に準じて読谷村地域自立支援協議会の部会の中に障がいを抱えた当事者の方々を入れるべきだと考える。村の方針とは。</p> | |